

## 改めて気づいた森林の大切さ

弘前市立福村小学校

造 田 紗央音

私は国語の「森林のはたらきと健康」という説明文を学習して、森林の心身が健康になるはたらきに感心し、もっと知りたいと思った。すると、関連した本の紹介ページに『森は生きている』という本がのつていて、興味を持ったのでその本を読むことにした。すると、その本は、森林の持つ様々なはたらきをくわしく説明していて、自然を守らうということとはどのようなことを、考えさせられる本だった。

この本を読んで、私はみなさんに森林の無い暮らしを想像してほしいと思った。森林からのおくりものといえば、みなさんは、木、すなわち「木材」を思い浮かべるだろう。だが、私はおどろいた。紙、木、水、土、ゴムなども全て森林からのおくりものだった。

その中でも私は、特に土のしてくれるはたらきに感心した。土がないと木が育たない、木がないと森林はできない。そんな大切な土は三億五千万年もの大昔に原始植物の根が岩と岩とをつなぎとめて芽が出たことが始まりとなっていた。その

くり返して土は厚くなっていっただけだといわれている。私は、この本を読み始めた時、ただ森林に感謝したいと思った。だが、この本を読み終わった時は、その森林を作る大切な土を作り出してくれた原始植物にも感謝したいと思うようになった。

もう一つ印象的だったところがある。それは、人々が苦心しながら砂丘に木を植えていたところだ。砂丘はたくさん砂が降ってくるので、暮らしたり、畑を作って農業をしたり出来なかった。そのため、海辺の砂を防ぐ海岸林を植え、国土を増やそうとしたのだ。しかし何度挑戦しても育たなかった。それでも人々は必死に木を植え、長い年月をかけてそれを実現させた。このことに私は感動した。私も一度や二度失敗してもあきらめないで、根気よく続けてみようと思った。そうすれば、いつかは努力が実る時が来るのではないかと考えるようになった。

筆者の富山和子さんはこの本を通して、森林は人間に無くてはならないもので、木そのものだけではなく、水、火、土

も作り出していることや、様々なはたらきをしてくれることを伝えてくれた。だから、今わたしたちが森林を守ることは、いつか私たちの暮らしを守ることになるのだと思った。

私は、この夏もキャンプに行った。森林の中で過ごし、畑で育った野菜を収穫させてもらったりした。炭を使ってバ

ーベキューもした。森林のありがたさに改めて気付かされた。この大切な森林を無くさないために、割りばしなど、木で出来たものを大切にしたり、水や土を汚さないなど身近な事から気を付けていきたいと思います。